(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称　　博士（医　学）　　氏 名　齋藤　理幸

	主査	教　授	渥美　達也
審査担当者	副査	教　授	石田　晋
	副査	准教授	矢部　一郎
	副査	教　授	佐藤　典宏

学 位 論 文 題 名

Quantitative investigation of choroidal circulation for retinochoroidal diseases
(網脈絡膜疾患における脈絡膜循環の定量的研究)

本研究で申請者は、眼底血流観察装置であるレーザースペックルフローグラフィー(LSFG)を用いて、網脈絡膜疾患における脈絡膜血流の経時的変化を検討している。

まず、申請者は中心性漿液性脈絡網膜症（CSC）に関する研究を行い、経時的に脈絡膜血流速度が減少することを明らかにした。このことから、申請者は交感神経刺激による脈絡膜動脈攣縮と二次的に生じる受動的な脈絡膜血流速度増加が、CSC の発症機序に関与すると考察した。次に、申請者は急性潜在性帯状網膜外層(AZOOR)に対する研究を行い、経時的に脈絡膜血流速度が増加することを明らかにした。また、血流速度の上昇はステロイド投与群で非投与群よりも早期から有意な変化を示した。このことから、申請者は脈絡膜炎に伴う脈絡膜循環障害が AZOOR の視細胞障害の原因である可能性があると考察した。

これら疾患の脈絡膜循環の対照的な変動の結果から、LSFG を用いて脈絡膜循環動態を観察することによって、炎症性疾患と非炎症性疾患を鑑別できる可能性について言及した。

質疑応答では、①炎症による脈絡膜循環障害は眼科領域では多く認められること、②AZOOR 患者には、他の膠原病のような全身的な異常は認められないが、抗甲状腺抗体陽性の患者が多いこと、③CSC は発症していない眼においても脈絡膜の肥厚や血管透過性亢進が生じている事、④脈絡膜循環を検討するのに、両疾患を選択した臨床的な背景、⑤LSFG を用いた新しい波形解析機能などを用いた他の報告があること、⑥今後の研究の報告性として、新しい波形解析機能などを用いて研究を進めていくことなど、申請者はおおむね適切に回答した。

この論文は国際雑誌および学会で高く評価され、LSFG は今後の脈絡膜疾患に対する有用な検査法となることが期待される。

審査員一同はこれらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士（医学）の学位を受けるのに充分な資格を有するものと判定した。